

1

ステップ0： わからないことをわかる —“わからない”と言えるレジデントになろう—



本章のポイント

わからないことに気づく、それがスタート

- 最新の医療も、標準的医療も怪しい
- 現状の医療を考えることが重要である
- わかっていると思うことこそ踏み込んで勉強してみよう

以下のフレーズを毎日唱えよう

- 人は知らないことを知らないと知っているという（RD レイン）
- 知らざるを知らずとす。これ知れるなり（孔子）

はじめに

—よくある研修医の話—

研修医は、各科ローテートの開始時に、厚生労働省が定める目標や病院の各科の目標とは別に、自分自身の個別な研修目標を3つくらい立てるとよい。その中でよくある目標が、当該科の標準的な診断・治療を身につける、というものである。目標達成のために、どんなふうに勉強すべきか。

たとえば指導医から次のように言われたら、どうするか。

指 導医：標準的なことより、EBMのステップに沿って勉強してみたら？ 厚生労働省の目標にも入っているし。

その後、多くの研修医はだいたいこんな感じになる。

研 修医：調べてみたのですが、うまくいきませんでした。

しかしうまくいなくても挫折することはない。それでうまくいけば誰も苦勞はしない。だからこそ、本書の意義もあるというものだ。とにかくそう簡単にはいかない。そこがスタート。だから読者の皆さんも、このことを共有した上で、話を

続けよう。

標準的な診断・治療

標準的な診断・治療という研修医に対して、あわててEBMの話を持ち出さず、少し聞いてみる。

指 導医：標準的ってどういうこと？

研 修医：まず標準的な教科書の記述レベルのことを身につけたいと思います。

指 導医：標準的な教科書って、実際にはどんな教科書を使ってる？

研 修医：内科ならワシントンマニュアルとか、ハリソンとか。

指 導医：受け持った患者に関するハリソンの該当部分を読むというようなことかな？

研 修医：まあそんなとこです。

指 導医：是非ががんばってみてください。

読者の皆さんにとっても、こちらのほうが現実